

BOTH
WATER
PROOFING
AAGENT

F★★★★適合商品

モルタル・コンクリート用

ボース防水剤



B.C. BOTH CO., LTD.

ボース防水剤

耐震耐火にすぐれ、換気性に富むモルタル・コンクリートも、多孔質なるが故に毛細管現象によって水分や湿気を吸収し、内部の可溶性塩類を溶出させるばかりでなく、大気の風化作用によって凝固体が中性化されて耐久性を失ない、いわゆる老化現象を起します。当社では、モルタル・コンクリートのこれらの短所を除去し、美しい仕上りを保つため、防水・防湿効果にすぐれた特色を発揮するボース防水剤は、半世紀にわたる実績と高い評価を保ちつづけ、今も尚混和防水剤として最高の品質を誇っております。

社団法人 公共建築協会
建築材料品質性能評価書



■主な用途

地下室、地下道、陸屋根、隧道、貯水池、貯水槽、浄化槽、醸造タンク、浴槽、浴室、プール、護岸工事、上水道、下水道、ブロック防水、防水パーライトモルタル、プaster防水、その他防水工事一切。

■特長

1. ボース防水剤は脂肪酸類、特殊水溶性樹脂を主成分とし、その他添加剤を配合した乳白色の液体です。
2. 使用法は簡単で、水で薄めた液を練り水として使用するだけで防水モルタル・コンクリートになります。
3. モルタル・コンクリート中の可溶性塩類（アク）と化学的に結合し、水酸化石灰の溶出を防止し、通気性を失なうことなく、防湿効果を発揮します。
4. アクの溶出を防止することにより、いつまでも美しい壁面を保ち、セメントの中性化を防ぎます。
5. モルタル・コンクリートに混和すると、分散的な役割りを果し、大変作業しやすくなります。
6. AE効果がありますので、フリージングやレイタンスが殆どなくなり、美しい面に仕上がります。
7. 従って、水量を約5%減しても同一施工軟度のモルタル・コンクリートができ、強度的な心配もありません。
8. 凍結融解に対する抵抗性が強いので、塩類の結晶を防ぎ、冬季の結氷による膨張で生ずる亀裂も予防します。
9. 万一漏水のある場合でも、アスファルト防水等に比し簡単に漏水個所の発見ができます。漏水個所にウレポンシール等の詰め込み、又は、防水モルタルの上塗りなどによって補修できます。
10. 防水モルタルに耐寒剤を併用する場合は、先に防水剤で固練りした後に耐寒剤を添加して再混練して下さい。



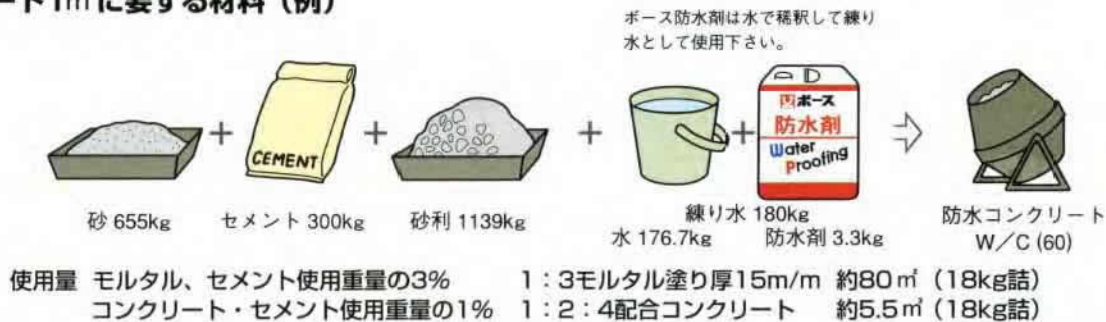
製品荷姿容量 ●18kg入角缶 ●4.5kg入角缶 ●1.5kg入角缶

ボース防水剤の使用法

■モルタル配合（1：3）に要する材料（例）



■コンクリート1㎡に要する材料（例）



使用上の注意

- 1.新鮮なセメント、不純物のない砂を用いること。
- 2.ミキサー練りが原則です。万一手練りの場合は十分な混和混練が必要です。
- 3.急結剤と併用しないで下さい。

配合材料使用例

A) モルタル1㎡に要する材料

配合比 セメント：砂	塗厚 (m/m)	W/C	水 (kg)	セメント (kg)	砂 (kg)	防水剤混和量 (C×3%) (kg)
1：2	10	50	2.90	6.2	12.4	0.19
	15	50	4.37	9.3	18.6	0.28
	30	50	8.74	18.6	37.2	0.56
1：3	10	60	2.85	5.0	15.0	0.15
	15	60	4.3	7.5	22.5	0.23
	30	60	8.55	15.0	45.0	0.45

B) モルタル1㎡に要する材料

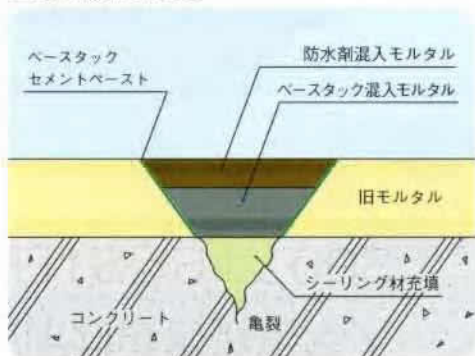
1：2		50	290	620	1,240	19.0
1：3		60	285	500	1,500	15.0

屋上モルタル防水工法

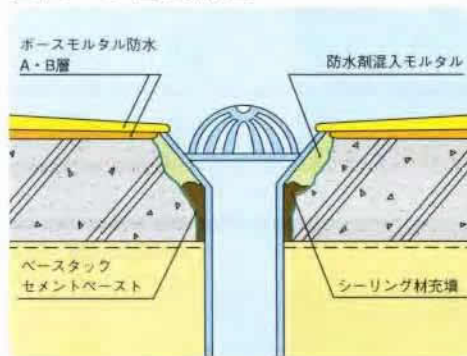
A) コンクリート面の処理

- 1.コンクリート面のレイトンス、木片、鉄筋、番線等を取り除く。
- 2.ジャンカ、クラック等はベースタックセメントペーストを塗り、ボース防水剤混入モルタルにて補修する。
- 3.打ち継ぎ箇所、亀裂、ルーフトレーン廻り、切りつけ等、漏水のおそれのある部分はV字型にはつり取り、清掃後、ベースタック混入モルタルを2/3充填し、残り1/3に防水剤混入モルタルを充填。
- 4.補修完了後、全面をほうきやブラシなどで水洗いをする。

■亀裂補修詳細図



■ドレーン廻り詳細図

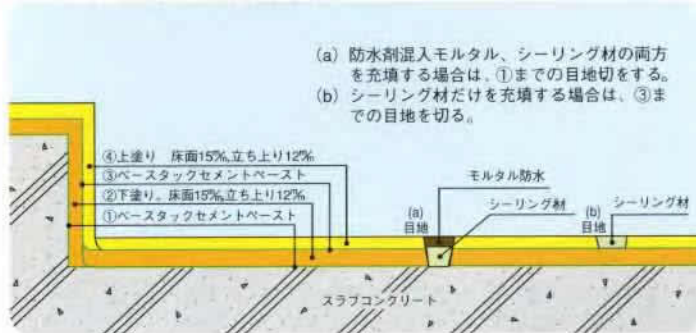


B) モルタル防水層塗工 (モルタル防水の塗工は密着層を含めて4層仕上げにして下さい。)

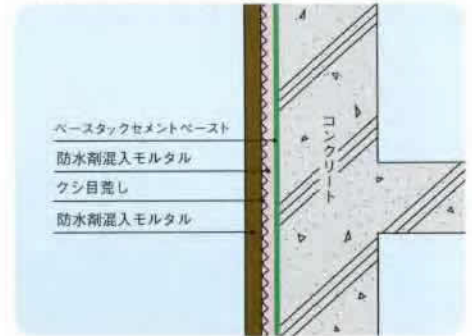
- コンクリート面に、ベースタックセメントペーストを塗工します。
- 下塗りモルタルは、ベースタックセメントペーストが乾燥した後に塗工し、鍍圧をかけ木鍍で押える。
- 上塗りモルタルは、硬塗り防水剤混入モルタルを定木摺りしながら金鍍で押え、仕上げして下さい。
- 下塗り及び上塗りモルタルの配合、塗り厚は次の表を参考にして下さい。

	区分	モルタル配合比	塗り厚
立上り	下塗層	セメント1：砂2	12m/m×2回
	上塗層	セメント1：砂3	
床面	下塗層	セメント1：砂2	15m/m×2回
	上塗層	セメント1：砂3	

■陸屋根立上り、床面詳細図



■外壁モルタル防水詳細図



C) 養生

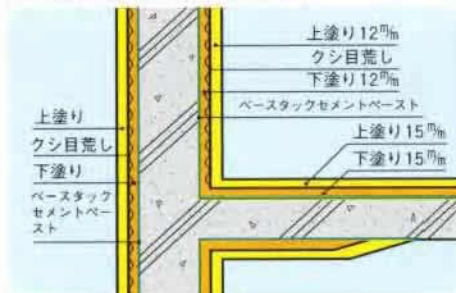
1. 夏期には養生シートで覆い、散水して10日以上湿潤養生させて下さい。
2. 冬期の凍結を防ぐ場合は覆いの内部に適当な保温設備をして下さい。

地下室 (水槽) モルタル防水工法

A) コンクリート面の処理

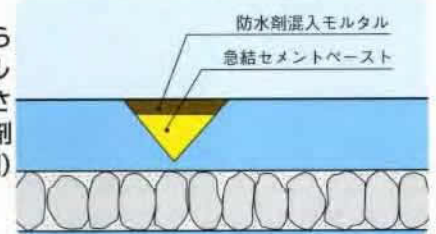
- 下地処理は屋上モルタル防水に準じて下さい。
1. 湧水、漏水のある部分はVカットし、急結モルタルを詰めて補修する。
 2. コンクリートに亀裂がある場合は研り50m/m、深さ30m/mを基準に、コンクリートの厚さや亀裂の割合によって増減して下さい。
 3. 水圧が激しく止水困難な場合は、グラウト工法により、セメントミルクを注入します。
 4. 補修箇所のモルタルが硬化した後、屋上モルタル防水工法に準じてモルタル防水を塗工して下さい。

■地下室立上り床面詳細図



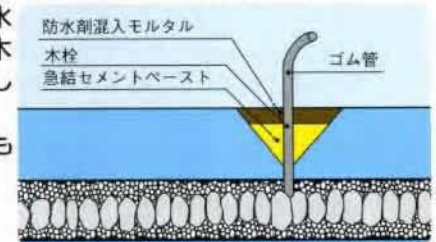
B) 漏水の少ない場合の止水

1. 打継ぎ、豆板などの不良箇所をV字型に研り取る。
2. 急結剤でセメントを練り、硬化直前に手で押えながら塗り付ける。
3. 漏水が停止してから防水剤混入モルタルを鍍で塗工して下さい。(ボース防水剤20倍稀釈液を使用)



C) 漏水が激しい場合の止水

1. 漏水箇所にゴム管を通し、ボース急結剤で止水します。
2. セメントの硬化後、約一昼夜経過してからホースを抜き取り漏水の少ない場合の工法で止水して下さい。
3. 水圧が激しく、止水不可能な場合は、木栓を打込んで止水します。鉛管を用いる場合も同様です。



〒344-0056 埼玉県春日部市新方袋395-1
TEL.048-755-1905 FAX.048-755-1906